インターナショナル スポーツ カイト ジャッジ ブック

Version 2.1 2006年8月1日

(日本語訳 2007年5月)

変更履歴 Change History :

Version 1.0 - 2001年 6月1日 オリジナル

Version 2.0 - 2005年 8月1日

Version 2.01 - 2005年11月1日

Version 2.1 - 2006年 8月1日

- 1 序文の注釈を変更
- 2. VII. Mixの採点 を加えた
- 3. VI.C. 一言付け加えた
- 4. Mix のスコアシートサンプルを加えた
- 5. ジャッジ用参照シートを削除した
- 6. フィールドディレクター用参照シートを変更した

The International Rule Book Committee - 2006~現在

AJSKA	AKA	STACK			
Fumiaki Tatsuma →Kanji Fujiyoshi	Mike Huff→Jim Barber	John Mitchell			
Masanobu Komuro	John Barresi	Peter Fiedler→Dave Morley			

目次

I.	序	文 INTRODUCTION	4
II.	概	要 GENERAL	5
A		責任 RESPONSIBILITIES	
A	1.	ジャッジの倫理 Judges' Code of Ethics	
	2.	飛行技術 Flying Skills	
В		運営指針 ADMINISTRATIVE GUIDELINES	
	1.		
	2.		
C		風待ちの手順 Wind Recess Procedure	
D		失格 Disqualification	
	1.	概要 General	12
	2.	事例 Examples	13
III.		採点の基本 THE BASICS OF SCORING	14
A		採点の手順 Scoring Process	14
	1.	ジャッジ Judges	14
	2.	採点の集計 Score Compilation	15
В		採点要素の定義 Scoring Component Definitions	16
	1.	複雜性 Complexity	16
	2.	連続性 Continuity	16
	3.	コンパルソリー Compulsory	16
	4.	コントロール Control	16
	5.	創造性 Creativity	16
	6.	リズム Rhythm	16
	7.	技術的難易度 Technical Difficulty	
	8.	タイミング Timing	
	9.	ウィンド ウィンドウの活用 Use of the Wind Window	17
IV.	プ	プレシジョンの採点 SCORING PRECISION	18
A		概要 GENERAL DESCRIPTION	18
В		採点要素 Scoring Components	18
	1.	コンパルソリー (各々20%) Compulsories (each 20% of precision score)	18
		テクニカル ルーティン (プレシジョン得点の40%) Technical Routine	18
	2		18
V.	バ	シーの採点 SCORING BALLET	20
A		概要 GENERAL DESCRIPTION	20
В		採点要素 Scoring Components	
	1.	振付け Choreography (バレー得点の 60%)	
	2.	実行力 Execution (バレー得点の40%)	
VI.		ミックスの採点 SCORINGMIX (NEW)	20
A		コンパルソリーの採点 Scoring Compulsories (一つがミックス得点の 15%)	20

B. バレーの採点 Scoring Ballet Components	20
1. 振付け Choreography (ミックス得点の33%)	20
2. 実行力 Execution (ミックス得点の22%)	21
VII. ペナルティの減点 SCORING PENALTIES	21
A. バレーとテクニカル ルーティンのペナルティ PENALTIES FOR BALLET AND THE PRECISION TECHNICAL	
ROUTINE	21
1. インプロパー ビギニング/エンディング Improper Beginnings and Endings	21
2. 接触(ティックス)とクラッシュ Incidental Contacts (Ticks) and Crashes	21
B. プレシジョンだけのペナルティ PENALTIES SPECIFIC TO PRECISION	22
1. 図形の間違い Flying the Wrong Figure	22
2. 「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls	
3. セットアップ タイムの違反 Violation of Setup Time	22
4. コンパルソリーでの接触とクラッシュ Incidental Contacts (Ticks) and Crashes During Comulsory	
C. バレー音楽の準備 BALLET MUSIC PREPARATION	22
VIII. 添付A: スコアシートのサンプル SAMPLE SCORE SHEETS	23

I. 序文 INTRODUCTION

本書は、スポーツカイトのジャッジにおいて起きうる様々な問題点について定義づけするものです。また、本書は、ジャッジが何に注意を払い、どのように行動をするべきかについて基本的な方針を述べているのであって、決してジャッジがどのように物事を観、どのように判定すべきかを明記するものではありません。

ジャッジの皆さんはワークショプやセミナーに出席する際、本書をお持ちください。理論と実践は常に一体でなければならない。

気持ち良く競技を進行できるように、オフィシャル(競技役員)はしかるべきレベルの理解力と行動力を持つべきです。本書は、より明解になるよう簡略にした項目もあるし、多くの革新的な変更も加えてます。しかしながら、このスポーツをより楽しく、わくわくしたものとして存続させ、新しい競技者を増やし、多くの人々にサポーターとなって戴くためには、さらなる改良を重ねていかなければなりません。そのためにインターナショナル ルール ブック委員会(IRBC)は、皆様からの御意見を電話、手紙またはEメールで常に求めています。AJSKA、AKAあるいはSTACKのメンバーであるなら、皆様が所属している団体の役員がお受けします。

最新版はIRBCの公式サイトhttp://www.worldsportkite.com/irbc.htm,またはAJSKAのホームページで手に入れることができます。

スポーツカイトルールの発展のために長年にわたって尽力くださった、いまや名を挙げるにはあまりにも大勢の皆様に、IRBCは慎んで感謝申し上げます。

注記:

本ル―ルブックは認可団体によって認められたル―ルであり、他に明記がない限り競技シーズンの開始から採用される。

ルールブックの公式採用日は下記の通りとする。

AJSKA 2007年4月 1日 AKA 2006年8月 1日 STACK 2006年9月28日

II. 概要 GENERAL

Α. 責任 Responsibilities

1. ジャッジの倫理 Judges' Code of Ethics

ここでは、競技者がジャッジに求めうる権利とジャッジが対応すべきことの基本的な事項につ いて述べている。しかし、判定は主観的なものであるから、各々のジャッジには各々違う見方 があるということを常に心に留めておかなければならない。

a) 正直であること Integrity

ジャッジは、競技者のあらゆる演技・振る舞いに対し細心の注意力を注ぎ、ジャッジとしての能 力を最大限発揮して正しく採点しなければならない。また、競技者との、あるいは使用されてい る用具メーカーや販売店との個人的・仕事上の関係は一切無視しなければならない。

b) 客観的であること Objectivity

競技者の音楽、カイトの種類、レベル、年令、性別などに対する個人的な好みは一切排除して 客観的に評価すること。

c) 偏見を持たないこと Open-Mindedness

観たままを評価する。自分が観たいもので評価しない。

d) 異義申し立て Criticisms

競技者から意見を求められたときは、いつでも建設的で正直な態度で答えること。

2. 飛行技術 Flying Skills

ジャッジは、必ずしも競技者または元競技者である必要はない。しかし、スポーツカイトのフ ライト技術に関するあらゆる側面について正確に理解し、常に最新の情報を身につけていなけ ればならない。

B. 運営指針 Administrative Guidelines

1. スタッフ Staff

a) スタッフ構成 Members of the Staff

(1) チーフ ジャッジ Chief Judge

競技会には一人のチーフ ジャッジを置く。チーフ ジャッジは競技種目のジャッジを兼任して もよい。チーフジャッジはその競技会において競技者として出場はできない。競技者が規 定された抗議手続きの段階を全て踏むことができるようにする為、チーフ ジャッジがヘッド ジャッジを兼任することは好ましくない。

チーフジャッジの責務は下記の事項である

- スタッフの配置及び運営管理
- 競技会のお知らせの編集、郵送、得点の発表の管理

- プレシジョン種目のコンパルソリー(規定図形)を3つ決める。可能であれば、他のジャッ ジ、特にプレシジョン種目のヘッドジャッジと協議して決定する。
- 競技会の最初と最後にミーティングを行う。
- インターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに従い、抗議について裁 定する。
- ◆ 各競技種目のフライトオーダーを準備する。
- ◆ 公認の規定条件に合致していない場合、認可団体または認可団体が委任した団体に対し て、公認の取り消しを勧告する。

(注記: 例えば、その大会がAJSKAの公認大会ならば認可団体とはAJSKAを指す)

- 競技会の開始時間・終了時間を決定する。
- 競技会の終了後、レポートを作成する。その内容は、ささいな問題から失格(DQ)処置、抗 議・苦情の内容とその処理、講評会での競技者やスタッフからの意見、また今後の競技会 に向けてのチーフ ジャッジからの提言などを網羅する。
- そのレポートは、競技会終了後 15 日以内に競技会の認可団体とスーパーバイザリコミッ ティに提出する。また、失格判定や競技者からの抗議事項に関与したヘッド ジャッジにも 提出する。
- 競技会終了後 15 日以内にその競技会の認可機関に全ての競技種目の採点結果を報告 する。

ヘッド ジャッジ Head Judge (2)

各々の競技種目には一人のヘッドジャッジを置く。

ヘッドジャッジの責務は下記の事項である。

- その種目に関する説明会を行う。
- その種目のジャッジを行う。
- ジャッジ・スタッフに手続き等に付いて指示する。
- インターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに従い、抗議について裁 定する。
- 種目毎の講評会を要求されたとき、または設定されているときは開催する。

(3) ジャッジ Discipline Judges

ヘッド ジャッジに加えて最低2人のジャッジを置く(即ち、合計3人)、国際競技会においては ヘッド ジャッジに加えて4人のジャッジを置く。どの競技会においてもできるかぎり4人のジ ヤッジを加えることが望ましい。

フィールド ディレクター Field Director (4)

フィールドディレクターはその種目の競技進行に関する全ての権限と責任を負うものであ る。フィールドディレクターは以下の責務を負う。

(a) 一般事項 General

- ・バレーの音源を集める。
- 競技を公正にそして時間通りに運営する。
- 競技者にインターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに記されて いるルールとガイドラインを守らせる。
- 競技者に適切な人数のラウンチ クルーを与える。
- 競技者が演技を開始した後に、ラウンチクルーがフィールド内に新たな用具を持ち込 んでいないか、チェックする。
- フィールド外からコーチするものがいないようにする。
- スポーツマンらしからぬ品行があった場合、適切な処置をとる。
- 風速を計り、ウィンド ルールを実施する。

(b) 安全性 Safety

- あらゆる注意・警告事項を競技者に知らせる。
- セーフティ ルールを侵害した場合、その種目において失格にする。
- ライン ジャッジを適切な位置に配備する。
- 競技者と後方の境界線との距離を監視する。(その部分を監視できるラインジャッジ がいない場合)
- 競技者に、後方の境界線に近づいたことを知らせる。
- フィールド上に関係者以外の人がいないか、また空中に障害物がないか、監視す る。

● 安全性に問題がある場合、適切な処置をする。

(c) 時間計測 Timing

- 競技者にセットアップ タイムを守らせる。
- 競技者の演技時間を計測する。
- 競技者の求めがあればタイム コール(時間を知らせる)をする。
- 競技者が最大許容時間に達したことをジャッジに知らせる。
- 競技者が最低制限時間に達しなかったことをジャッジに知らせる。

(d) 運営 Coordination

- 競技者にフィールド入場の合図を送る。
- 競技者をフィールドに迎える。
- 競技者の技術レベルに応じて適切な演技場所を指示する。
- ◆特別な情報があれば競技者に伝える。
- ジャッジの用意ができたことを競技者に伝える
- 要求があれば競技者(個人またはペア、チームのリーダー)にコンパルソリー図形を 見せる。
- 「イン」「アウト」のかけ声がかかったことをジャッジ に伝える
- PA に音楽の開始を指示する。
- ライン ジャッジの動きを監視する。
- ピット ボスと連絡を取り合う。
- 演技が終わったならば次の競技者が出来る限り早くフィールドに入れるようにする。
- 風の中断など競技に影響を与える事が起きたとき、チーフ ジャッジ、ヘッド ジャッジ やその他の役員と連絡を取り合う。
- 競技者から求められたときラウンチ クルーを手配する。

様々な理由でフィールドディレクターは上記の責務を果たすことができない場合があるかも知れない。しかし、だからといって、競技者がルールあるいはガイドラインの規定を免れることはできない。例えば、競技者が境界線に接近した時あるいはイエローフラッグを上げられた時に、そのことをフィールドディレクターが競技者に知らせ無かったとしても、競技者の体もしくはカイトが境界線を越えてしまったならば失格となる。

(5) ピットボス Pit Boss

- 「種目の参加競技者数と技術レベルによっては、必要に応じてピット ボスを置く」とルールは定めている。ピット ボスはフィールドディレクターの指導のもと、以下の青務を負う。
- フィールド ディレクターからフィールド インの合図が出るまで、競技者をステージ イン エリアで待機させ、演技開始の準備をさせておく。
- 速やかにステージ イン/ステージ アウト エリアから全ての用具を競技者に撤去させる。
- できる限りステージイン/ステージアウトエリアは何も無い状態にしておく。(用具を置き っぱなしにしない、誰もそこにいないようにする。)
- 常にフィールド内には関係者以外を入れないようにし、フィールド上空には障害物がないようにする。
- 安全上の問題が起きた時はフィールドディレクターに警告すること。
- 競技会ブリーフィング(競技会開始前のミーティング)において決定した方法に従い、必要 があれば他の競技者の中からラウンチ クルーを指名する。

(6) ライン ジャッジ Line Judges

二人のライン ジャッジを置くことが望ましい。ライン ジャッジはフィールド ディレクターの指導のもと、以下の責務を負う。

- 境界線を監視する。競技者のカイトが境界線を超えた場合、フィールド ディレクターに報告する。通常、内側境界線を超した場合にはイエローフラッグ、外側境界線を超した場合にはレッドフラッグを合図として上げる。
- 演技の最中に競技者の体が境界線を超した場合、フィールドディレクターに報告する。通常、内側境界線を超した場合にはイエローフラッグ、外側境界線を超した場合にはレッドフラッグを合図として上げる。
- フィールド上に関係者以外を入れないようにし、フィールド上空に障害物がないようにする。
- 安全性に問題があればフィールドディレクターに警告する。

(7) 得点係 Scorers

得点係はチーフ ジャッジの指導のもと、以下の責務を負う。

- スコアシートが読みやすく完璧であるか確認する。
- ジャッジのスコアシートを集計する。
- 最終得点から差し引くペナルティを確認し、減点する。

注記: Ⅲ-A-2-c 最終得点からの減点 に示す2つの違反がある場合。

- 種目毎の順位を決める。
- チーフ ジャッジの指示のもとに得点を公表する。

b) スタッフの交代 Changes in Staff

できうる限り一つの種目を通して同じスタッフが担うこと。しかし、交代をしなければならない場 合は以下の事項を守ること。

- ジャッジが競技の途中で抜ける場合、そのジャッジのスコアは全て抹消される。そのジャッジ がヘッド・ジャッジである場合は、残りのジャッジの中からヘッド・ジャッジを指名する。
- ジャッジが抜けた場合、最低三人のジャッジが残っていること。ジャッジが抜けたことによって 審判団が三人に満たない場合は、その競技は無効とし、新たに審判団を揃えて再開する。
- フィールド ディレクター、ライン ジャッジ、ピット ボスは必要に応じて交代してもよい。

2. ミーティング Meetings

ミーティングに出席することを推奨する。認可団体、イベント主催者、チーフ ジャッジはミ ーティングへの出席を**必須条件(mandatory)**にする事ができる。 その場合、最低30日前には その旨を競技者に知らせること。

注記: 必須条件(mandatory) とはII-D-2-c に示すように、失格事項に決めることもできる。

a) 説明会 Briefings

(1) 競技説明会(進行:チーフジャッジ) Competition Briefings

競技説明会では、チーフジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- 事前公表のスケジュールからの変更点の説明。
- 安全性の重要性を強調する。
- 競技フィールド、練習フィールド及びその他の制限区域を説明する。

- ステージイン、ステージアウト(入場、退場)の手順を説明する。
- 適宜、公認スタッフ及び参列者の紹介をする。
- スケジュールに混乱が生じたときの調整の手順を説明する。
- スーパーバイザリコミッティの競技者代表の選出を監督する。また、ジャッジ代表が選出 されていることを確認する。
- ラウンチ クルーの選出方法を決定する。
- 競技会に関するその他の事柄について話し合う。
- 異義申し立ての方法を確認する。
- 講評会(競技終了後)への出席を伝える。
- 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)
- 競技者の質問に答える。
- 競技会開催の間、競技者の質問を受け付けるスタッフを決める。また、連絡等の告示を貼 り出す場所を示す。

(2) 種目説明会(進行:ヘッド ジャッジ) Discipline Briefing

種目説明会では、ヘッドジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- ジャッジ、フィールドディレクター、ラインジャッジ、ピットボスを紹介する。
- 点呼をし、フライトオーダーを発表する。
- バレー種目の音源をフィールドディレクターに集めさせる。
- ラインジャッジの位置の確認。
- ステージイン、アウトの手順の確認。
- ラウンチ クルーの割り振り方法の確認。
- プレシジョン種目のコンパルソリー(規定図形)の発表とその確認。
- 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)

b) 講評会 Debriefings

(1) 競技講評会(進行:チーフ ジャッジ) Competition Debriefing

競技会終了後ただちにチーフジャッジは講評会を開く。ただし、競技会主催者あるいはチーフジャッジの判断によるが、表彰式・結果発表の後に行うべきである。講評会は、この先開催する競技会をより良いものとするための、競技者に意見交換を求める場である。また、オフィシャル、特にチーフジャッジとヘッドジャッジから競技会全体について、及び各種目についての意見を述べる場でもある。チーフジャッジは講評会で話題にのぼったこと全てをレポートに書くこと。

一つ以上の認可団体が公認した国際競技会の場合、レポートはインターナショナル ルールブック委員会(IRBC)に送付すること。

正式の講評会が終わった後に、競技者は自分の採点を行ったジャッジ達と演技内容について話し合う機会を持つべきである。それにより、競技者は演技を磨くのに有益な意見・感想を得る事ができる。

(2) 種目講評会(進行:ヘッド ジャッジ) Discipline Debriefing

競技者またはオフィシャルから要望があれば、ヘッド ジャッジはその種目の講評会を開くこと。その目的は以下の通りである。

- 競技中に起きた事柄についての説明。例えば、風待ちの中断、失格など。
- 演技内容について競技者からの質問に答える。
- 競技者に、ジャッジやオフィシャルから建設的な批評やアドバイスを述べる。
- どうすればさらに良い競技会になるのか、どこを簡潔化すればよいのか、意見を出しても らう。

C. 風待ちの手順 Wind Recess Procedure

風待ちの中断となった場合は、ヘッドジャッジは風の状態が規定の範囲になるまで待ち、風待ちの中断が宣言された時点での飛行順から続行する。

適切な時間内に風の状態が改善しない場合、ヘッド ジャッジはチーフ ジャッジ及び必要ならば スーパーバイザリコミッティとも相談し、方針を決める。その決定はインターナショナル スポーツ カイト競技会ルールのガイドラインに従う。決定後、オフィシャルは、全ての競技者が公正に扱われるよう最善を尽くすこと。

D. 失格 Disqualification

1. 概要 General

オフィシャルが競技者を失格にした場合、そのオフィシャルは競技者に渡す報告書を作り、そのコピーを認可団体に送付しなければならない。失格になった競技者がオフィシャルの決定を不服とする場合、そのオフィシャルは、報告書を作成して競技者に渡し、そのコピーを認可団体に送付しなければならない。

失格は、その失格を受けた競技者種別(個人、ペア、チーム)のみに適応する。例えば、チームが失格となった場合でも、そのチームのメンバーはそれぞれ個人競技に参加できる。

失格となった競技者はただちにフィールドを出ること。いかなる抗議も議論もその種目の終了 後に行うこと。

2. 事例 Examples

違反があった場合、オフィシャルはただちにルールの違反規定に基づいて決断をしなければな らない。

a) スポーツマンらしからぬ振舞 Exhibiting Unsportsmanlike Conduct

スポーツマンらしからぬ振舞をした競技者はその種目を失格となる。違反を繰り返したり、暴力 的かつ危険な行動をする者はその競技会を失格となる。

b) 演技中に他者からアドバイスを受ける

Receiving Advice on the Competition Field during a Discipline

演技中にフィールド上でフィールド ディレクター以外の者からアドバイスを受けた競技者は、そ の種目の最終得点から得点係が 10 点減点する。

アドバイスしたり野次ることはスポーツマンシップに反する行為とみなされる。繰り返し行う場合、 また深刻な妨害行為はその種目を失格になる。

境界を越えたフライト Flying or Moving over Boundaries

演技の前後を含めて境界線の外側を飛行したことが認められた場合は失格となる。このルール はヘッドジャッジに定められたその競技の開始から終了までの間適応される。

もし演技中に競技者の身体の一部分でも境界線から出た場合も失格となる。

採点の基本 THE BASICS OF SCORING III.

ジャッジは定義された採点項目毎に0から100までの点数(整数)をつける。この点数でその種 目の順位を決める。

採点は競技者の技術レベル〔クラス〕は考慮せずに、演技内容そのものに対して評価を行う。そ うすることにより、得点を比較することでクラス分けに関係なく全競技者の実力を比較すること が可能になる。

(注記: 採点は相対評価ではなく絶対評価をする。個々の大会における順位は相対的なものだが点数はその競 技者の実力を示す指標になるべき、との方針。すなわち点数を見ることで海外のフライヤーなどとの力量を 居ながらにして比べることが可能になる。)

A. 採点の手順 Scoring Process

1. ジャッジ Judges

a) 位置 Position

通常、ジャッジは競技者及びフィールドディレクターの妨げにならない、競技者の後方に位置す る。すなわち、競技者の動きに合わせてジャッジは移動しなければならない。

b) コンディション Conditions

ジャッジの採点は不安定な風や天候の悪条件を反映してはならない。例えば、悪天候だからと いって採点があまくなることはない。つまり、ジャッジは観たものだけをそのまま採点するので あり、なにものにも左右されない。

c) 書類 **Documents**

ヘッドジャッジは、最新版のインターナショナル ルール ブック及び認可機関が作成した附則 (追加要綱など)類を持ってフィールドにいくこと。

採点表には最低限下記の項目を入れる。

- 競技会名
- 開催年月日
- 競技種目
- ヒート(予選) (必要な場合)
- クラス
- ジャッジの名前(もしあれば登録番号)
- 競技者のフライトオーダー

- 競技者の名前と登録番号
- 種目毎の採点要素の得点(素点)記入欄
- インプロパーエンディングのペナルティ
- その他のペナルティ
- 備考欄

2. 採点の集計 Score Compilation

a) 手順の概要 General Procedure

ジャッジは採点とコメントをスコアシートに記入する。最終得点から減点するペナルティを除いた ペナルティに対する減点はジャッジが決定し、スコアシートにそれを明記し、それぞれの採点要 素欄に減点した点数を記入する。得点係がジャッジのスコアシートを集め、集計し、順位を決め る。

b) 個々の得点の集計 Calculating the Individual Scores

各競技者について、各ジャッジからのコンポーネントの得点を集め、集計し、[IV. プレシジョン の得点]並びに[V. バレーの採点]に基づいて競技者の演技に順位を決める。すべてのジャッ ジの採点は最終得点の確定に用いられる。ただし、シャドージャッジ(トレーニング期間中のジ ャッジ)は含まれない。認可機関がある特定の採点プログラムまたは方式を公式に認可した場 合、そのプログラムまたは方式を認可機関の管轄下のすべての大会で用いて得点の集計を行 わなければならない。すべてのデータと計算はダブルチェックすること。

c) 最終得点からの減点 Deductions From Final Score

いくつかの違反は、総得点あるいは採点要素の最終得点から減点する。ジャッジはその違反内 容を明確にスコアシートに書き示す。それに対してペナルティを課す場合は、まず通常通りに得 点を計算し、そこから得点係がペナルティの減点分を差し引き、最終得点を計算する。最終得点 から複数のペナルティ減点もありえる。

違反	減点
フィールド上で助言を受けた	最終得点から10点減点
音源の名前のつけ忘れ・頭出しの忘れ	最終得点から10点減点

d) 種目の総合得点 Combining Scores across Disciplines

いくつかの種目を合計して最終得点を計算するには、それらの得点の合計を種目数で割る。

e) 得点の発表 Publishing Scores

種目あるいはクラスの成績発表は、競技者名と得点を併記する。ジャッジの名前を出すかどう

かは認可団体が決定する。国際競技会ではジャッジの名前は発表する。

競技終了後の種目講評会では、競技者は各々のジャッジと自分の得点と演技について話し合う ことができる。

B. 採点要素の定義 Scoring Component Definitions

ここでは、評価に用いるいくつかのキーワードを定義し、採点要素(Scoring Component)をどの ように採点するのかを説明する。

1. 複雑性 Complexity

一般的に、失敗や即興(失敗をカバーしたり補うためのアドリブ)の割合が少ないルーティン、 つまりきっちりと振り付けされた要素(ここでの要素とは、チームでの「スレッド」や「フォーメーシ ョンフライト」などを指す)と要素のつなぎの時間がより少ないルーティンは複雑性が高いと判断 できる。

(注釈:どれぐらいたくさんの種類の要素を取り入れているか、それらの要素をどのように つなぎ合わせているか、どのように変化させているか、等のことをいう。)

2. 連続性 Continuity

連続性とは、ルーティンの各々の要素が互いに流れるようにつながり、一つの完成体として連 続していることをいう。

3. コンパルソリー Compulsory

コンパルソリーとは、プレシジョン種目における規定図形をいう。インターナショナル スポーツ カイト コンパルソリー ブックにそれらの図形と説明が記されている。

4. コントロール Control

コントロールとは、競技者の思いの通りにカイトを飛ばす技術をいう。直進、後退、水平移動の技 術力、スピードコントロール、あるいはストールやアクセルの技術力、それらカイト操作技術の 正確さを含む。マルチライン種目では、マルチラインの飛行特性をコントロールする技術を表現 すべきである。

5. 創造性 Creativity

創作力が演技にみられるかどうか。

6. リズム Rhythm

いろいろな動き、スピードの変化、静止、などを繰り返したり、交互に行うことによってカイトの動 きに躍動感や変化を付けること。

7. 技術的難易度 Technical Difficulty

技術的により難しく、大胆なカイト操作を取り入れているか。

注意:チーム競技において、メンバーの多さを自動的に技術的難易度に反映はしない。

8. タイミング Timing

タイミングとは、マヌーバー(操作)とマヌーバーの間隔をいう。個人競技においては調和の取

れたきれいな間隔でカイトがターンしているか、ペアまたはチーム競技においては、カイトの動 きがきっちり揃っているか、あるいは一定の間隔で次々とカイトがターンしているか、などのこと をいう。

9. ウィンド ウィンドウの活用 Use of the Wind Window

カイトが飛行出来る範囲をより広くいっぱいに活用して演技しているか。

IV. プレシジョンの採点 SCORING PRECISION

Α. **General Description**

プレシジョン種目は3つのコンパルソリー(規定図形)とテクニカル ルーティンから成る。 そして、テクニカル ルーティンの採点要素は、実行力(EXECUTION)と構成力(CONTENT) に分けられる。

- B. 採点要素 **Scoring Components**
 - コンパルソリーとテクニカル ルーティンの配分割合は下記による。
 - 1. コンパルソリー(各々20%) Compulsories (each 20% of precision score)
 - すべての規定図形には2つのクリティカル コンポーネントが設定されています。そしてそれ は採点に関して大きなウェイトを占めます。国際競技会ではそれぞれのクリティカル コンポ ーネントはその図形の採点の30%にもなります。クリティカル コンポーネントを重要視する 事により、フライヤーもジャッジもその規定図形が求める要素が何であるかに注目し、正しく 図形を描くことになります。 ただ、クリティカルコンポーネントはあくまで規定図形の要素の 一部であり、仮にそれがまったく実行されなくても、その規定図形がO点になるものではない。 注記:ここで言う「国際競技会」とは各国の競技者が参加する場合のことを言う。例:スペインとイタリア
 - コンパルソリー図及び説明内容の通りにフライトしているか比較する。
 - コンパルソリーブックで定義している「A. グリッド上の位置」「B. 図形の調和」「L. スピードコ ントロール」など図形に関する様々な事項に注目して評価する。

注記:コンパルソリーブックのIV. 用語解説に詳しい内容が書かれているので参照のこ と。

- 2. テクニカル ルーティン(プレシジョン得点の 40%) Technical Routine
 - a) 実行力 Execution (テクニカル ルーティンの 75%、プレシジョン得点の 30%)
 - コントロール、複雑性、ウィンドウの活用を評価する。
 - ◆ 大胆なマヌーバあるいはトリック技の質を評価する。
 - マルチラインでは、カイトの飛行特性を効果的に表現しているかを評価する。
 - ペアとチーム競技では、タイミングとカイトのスペーシングを重要視する。
 - b) 構成力 Content (テクニカル ルーティンの 25%、プレシジョン得点の 10%)

- 複雑性、独創性、リズム、創造性、連続性を評価する。
- 大胆なマヌーバ(操作)やトリック技が盛り込まれているか評価する。

V. バレーの採点 SCORING BALLET

Α. 概要 General Description

バレ一種目は、競技者が選択した音楽に合わせて行う自由演技である。

B. 採点要素 Scoring Components

- 1. 振付け Choreography (バレー得点の 60%)
- 音楽をいかに理解し表現しているか、が重要なポイントである。
- 連続性、創造性、複雑性、リズムを評価する。
- 2. 実行力 Execution (バレー得点の 40%)
- コントロール、ウィンド ウィンドウの活用、技術的難易度、リズムを評価する。
- ペアとチーム競技では、「タイミング」と「スペーシング」を評価する。

VI. ミックスの採点 SCORING MIX (NEW)

プレシジョン、バレーの種目に加えてミックスを設ける。

コンパルソリーの採点 Scoring Compulsories (一つがミックス得点の15%) Α.

- すべての規定図形には2つのクリティカル コンポーネントが設定され、採点に大きなウェイト を占める。クリティカルコンポーネントはあくまで規定図形の要素の一部であり、仮にそれが まったく実行されなくても、その規定図形がO点になるものではない。
- コンパルソリー図及び説明内容の通りにフライトしているか比較する。
- コンパルソリーブックで定義している「A. グリッド上の位置」「B. 図形の調和」「L. スピード コントロール」など図形に関する事項に注目して評価する。

B. バレーの採点 Scoring Ballet Components

バレーは、競技者が選択した音楽に合わせて行う自由演技である。

- 1. 振付け Choreography (ミックス得点の 33%)
- 音楽をいかに理解し表現しているか、が重要なポイントである。

- 連続性、創造性、複雑性、リズムを評価する。
- 2. 実行力 Execution (ミックス得点の 22%)
- 「コントロール」「ウィンド ウィンドウの活用」「技術的難易度」「リズム」を評価する。
- ペアとチーム競技では「タイミング」と「スペーシング」を評価する。

VII. ペナルティの減点 SCORING PENALTIES

A. バレーとテクニカル ルーティンのペナルティ Penalties for Ballet and the **Precision Technical Routine**

ここでは、いくつかの採点要素に対する強制減点及び任意減点について定義する。

- 1. インプロパー ビギニング /エンディング Improper Beginnings and Endings 下記 a)b)c)のペナルティは、審判団が全員一致で決定した場合のみ適応される。
 - a) セットアップ タイム違反 Violation of Setup Times

競技者が定められたセットアップタイム以内で演技を開始せず、フィールドディレクターが「イ ン」のかけ声を掛け強制的にスタートさせた場合、バレーの振付けの得点から 10 点減点、プレ シジョンにおいてはテクニカル ルーティンの構成力の得点から 10 点減点する。

- b) 制限時間の違反 Violation of Discipline Time Frames
 - 最小制限時間より短かった場合 Less than Minimum Time (1)

演技時間が定められた制限時間に満たなかった場合、演技は行わなかったものとみなし、 得点はゼロとする。

最大制限時間を越えた場合 More than Maximum Time (2)

演技が制限時間を越えた場合、制限時間外の演技はなかったものとして、制限時間内の演 技だけを対象にジャッジは採点する。加えて、バレーの振付けの得点から 10 点減点、プレ シジョンにおいてはテクニカル ルーティンの構成力の得点から 10 点減点とする。

c) はっきりしない「始まり」「終わり」 Lack of Conceptual Beginning or Ending

テクニカル ルーティンとバレーの演技は、「始まり」、「中間」、「終わり」という三つの構成で成り 立つべきものである。演技の「始まり」または「終わり」がきっちりと明瞭に演技されなかった場 合、バレーは振付けの得点から10点減点、プレシジョンのテクニカル ルーティンでは構成力の 得点から10点減点とする。

2. 接触(ティックス)とクラッシュ Incidental Contacts(Ticks) and Crashes ティックスやクラッシュはペナルティーとならない。

ジャッジは、それらのミスが演技に与えた影響を考慮して総合的に採点する。

B. プレシジョンだけのペナルティ Penalties Specific to Precision

1. 図形の間違い Flying the Wrong Figure

指示された図形と異なる飛行をした場合、ジャッジはそのコンパルソリーの得点をゼロとする。 競技者から事前に進入方向を逆から行う、と報告せずに図形の指示とは逆の方向からコンパル ソリーを開始したときもゼロとする。

2. 「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls

テクニカル ルーティンあるいはコンパルソリーにおいて競技者が「イン」あるいは「アウト」 コールをしなかった場合、その要素はゼロと採点する。

注記: コンパルソリーのうちの一つでこの違反があった場合、そのコンパルソリーに対してのみゼロで あり、他の2つに対しては採点される。

3. セットアップ タイムの違反 Violation of Setup Time

コンパルソリーにおいて、競技者が規定のセットアップ タイム内で演技開始できなかった場 合、その図形に対してはゼロとする。その次のプレシジョンの要素(コンパルソリーまたはテ クニカルルーティン) に対するセットアップ タイムの計測は直ちに開始する。

4. コンパルソリーでの接触とクラッシュ

Incidental Contacts (Ticks) and Crashes During Comulsory ティックスやクラッシュはペナルティーとならない。

ジャッジは、それらのミスが演技に与えた影響を考慮して総合的に採点する。

C. バレ―音楽の準備 **Ballet Music Preparation**

きちんと音楽の頭出しができていない、または音源に名前を記載していないとヘッドジャッジが 判断した場合、全てのジャッジに音楽のペナルティとしてスコア シートに明記させ、得点係が バレーの最終得点から10点減点する。

VIII. 添付 A: スコアシートのサンプル Sample Score Sheets

下記のジャッジシートは原文の内容を網羅して1枚のシートに2,3人書き込めるよう作成したものです。参考まで。

AJSKA ジャッジシート Ballet

2007. 4月以降適用改定版(0620修正)

大会名 :										□∥			ロラ			□N					ジャ	ッジネ	名/II	D No.	
開催日 年 月	F	Ī	会場	큵:							ペア チー』	4		マルラ	F	□E:		ШΜ	AS						
					力(4	10%)						拼	長付	(6	0%		~ +		4 1	ペナ	・ルテ	·1②	失	格
評価項目	コントロール	音楽との同調性	直線	アーク・カーブ	ターン・角付け	ラス ント デー	コントロー	トリックの質	タイミング・スペーシ	の解釈	複雑性	曲調の変化の活用	トリックの効果的活用	テンポの変化	ウィンドウの活用	タイミングの複雑さ	スペーシングの多様さ	最大演技時間	ル グ・エンディング インプロパービギニン	_	競技中の助言	音源名・頭出しの不備	最小演技時間以下	非スポーツマン的行為	境界越えのフライト
競技順	低並	低並	低並	低並	低並	低 並	低 並	低並	低並	低 並	低並	低並	低 並	低並	低並	低並	低 並	無	無	無	無	無	無	無	無
氏名 AJSKA No.	メモ	高	高	高	高	高	高	高	槁	まる おおい おおい まんしょう はいしょう はいしょく はい	高	高	高	高	高	高	高	有→振付から⑩点減	有→振付から⑩点減	有→振付から⑩点減	有→最終得点から⑩	有→最終得点から⑩	有→○点	有= 失格	有= 失格
競技順	低	低	低	低	低	低	低	低	点低	低	低	低	低	低	低	低	点低	点	点	点)点減点)点減点			
氏名	並 高 メモ	高	高高	高高	前	高	高	並高	前	並 高 メモ	高高	前	前	前	並高	高	並 高	無 有→振付から	無 有→振付から	無 有→振付から	無 有→最終得点	無 有→最終得点	無 有→ 0 点	無有 半失格	無 有 男 失格
AJSKA No.	let.	1re	45	45	· re	(cr	(cr	let.	点	(15)	45	/rr	···	M	I++	14	点	⑩点減点	⑩点減点	⑩点減点	から⑩点減点	から⑩点減点			
競技順	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並言	低並	低並言	低並言	低並言	世 独 地	無	無	無	無	無	無	無	無
氏名 AJSKA No.	高	高	高	高	高	高	高	高	高点	まる メモ	高	高	高	高	龍	高	- 电	有→振付から⑩点減点	有→振付から⑩点減点	有→振付から⑩点減点	有→最終得点から⑩点減点	有→最終得点から⑩点減点	有→0点	有= 失格	有= 失格

※採点は各欄共、100点満点で記載する。

[※] ペナルティはジャッジ全員の合意で決定し①はジャッジが振付の要素から、②はスコアラーが最終集計得点から減点する。

AJSKA ジャッジシート Precision

2007. 4月以降適用改定版(0620修正)

ナ	会名:						□個□ペ		ロデーロマ			V □		-	ジャ	ッジ	名/]	D No	•
閉	月催日: ⁴	年 月	日 会場	•			ロチ	ーム			□0I	PEN							
		(テクニ	実行力 カルルーティン得点	の75%)		(テクニカ)	ルルーティ	構成 ン得点の	大力 ひ25%))		ルルーティ: D構成 <i>ナ</i>		〒ケニカル ンの^゚		プレシ	/ジョン(③		ルティ
	テクニカルルーティン の評価項目 ・ ペナルティ	コントロール	タイミング	トリックの完	複 雑 性	連続性	技術的難度	トー ル・スラ	トリック	その他	最大演技時間	エンディング	違反セットアップ	小演技時間	の欠如アウト	競技中の助言	為 非スポーツマ.	境界線越え	
		活 用		成 度	let.	let	let	イ・ ドス	let	let.	超過	ギン・	タイム	以下	コール	h	かり行	for	
	テクニカル ルーティン (40%) ※それぞれ0-100	低 低 低 並 高 高 メモ	低 低	低 並 高	低が高く	低並高	低並高	低並高	低 並 高	低 並 高	無 有→⑩点減	無 有→⑩点減	無 有→⊜点減	無 有→ 0点	無有→0点	無 有→⑩点減	無有一失格	無有 一 失格	
	点で記入			点						点	点	点	点			点			
玨	注技順: :名: JSKANo.: コンパルソリー (60%)	図形1 DT 03 - Folic 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50	作成例 ow, Flank Up, and Squ	10	図形2						図形	% 3							
	採点	CC.1(30%)	CC.2(30%) 直角	その他(40%)	CC.	(30%)	CC.2	2(30%)	その他	也(40%)	C	CC.1 (30	%)	С	C.2(309	%)	7	の他(40	%)
	※ それぞれ0-100 点で記入	平行線	直,用	位置/タイミング		ď		ď		ä			ii ii			Ь			- E
	コンパルソリーのペナル ティ	図形の間違い 無 ・有→0	イン・アウトコールの欠落 点 無 ・有→0点	tットアップ タイム違反 無 • 有→0点)間違い f → 0 点		-ルの欠落 「→ 0 点	セットアップ			形の問〕 ・有 →			ウトコールの • 右→			yブ タイムj 有→	
	テクニカル ルーティン (40%)	低 低 低 並 高 高 メモ		低遊高	低並高メモ	低並高	低並高	低並高	低並高	低並高	無 有→⑩点減点	無 有→⑩点減点	無 有→⑩点減点	無有→0点	無有→の点	無 有→⑩点減点	無 有= 失格	無 有= 失格	<u>0 m</u>
	姓技順:	図形1	作成例	, ,	図形2					W	図形	/ 3							
	:名: JSKANo.: コンパルソリー (60%)	DT 03 - Folice	ow, Flank Up, and Squ	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00															
	採点	CC.1(30%) 平行線	CC.2(30%) 直角	その他(40%) コンボーネントの相対的	CC.	(30%)	00.2	2(30%)	その他	也(40%)	C	CC.1 (30	%)	С	C.2(309	%)	7	の他(40	%)
	※ それぞれ0-100 点で記入	T*1 J #9K	但月	位置/タイミング		p.o.		p.o.		j=			lo-			lo lo			le-
	コンパルソリーのペナル	図形の間違い				問違い		小の欠落	セットアップ			形の間泊		_	ウトコ <i>ール σ</i> . 			97° 9(4)	
ш	፣ ተ	無 ・有→0,	点 無 ・有→0点	無 · 有→0点	- 無・1	f→0点	無・1	コプロ点	無・有	一つひ思	無	有→	ひ思	ж.	- 有→	リ思	ж.	有→	リホ

AJSKA ジャッジシート MIX

2007. 4月以降適用改定版(0620修正)

大	会名:					□ 個人□ ペア	□ デュアル □ マルチ	□NOV □INT □EX □MAS		名/ID No.	
開作	崔日: 年	月 日	会場:			□ チーム		□ OPEN			
競技	支順:	図形1	作成例		図形2			図形3			
氏名	名:	DT 03 - Follow.	Flank Up, and Squa	ire							
		90	n _ a _	er 🔷 Out							
AJS	SKANo.:	80		4							
		50									
	コンパルソリー	30									
	(それぞれMIX得 点の 1 5%)	70	20 0 10 30 4	0 60							
	/// 1 O /0/	CC.1 (30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	CC.1(30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	CC.1(30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	
	採点	平行線	直角	コンホーネントの相対的		00.2(00.0)	C 07 (10 (10 (10 (10 (10 (10 (10 (10 (10 (10	00.17(0010)	00.2(00%)	0 0 12 (10 10	
		. 1340		位置/タイミング							
	※それぞれ0-100 点で記入										
		点	点	点	点	点	点	点	J.	i. i	
	コンパルソリーのヘプナル ティ	図形の間違い 無 ・有→0点	イン・アウトコールの欠落 無 ・ 有 → 0 点	tットアップ タイム違反 無 • 有 → 0 点	図形の間違い 無 ・有→0点	(ン・アウトコールの欠落 無 • 有→0点	tットアップ タイム違反 無 ・有→0点	図形の間違い 無 ・有→ 0 点	イン・アウトコールの欠落 無 • 有→ 0 点	7117 11 702	
	71	コントロール	無 1月70点	無・有→0点	JE	無・有一し点	悪 ・ 有→ 0 点		i i	無 ・有→0点	
	実行力	音楽との同調		低 並 高	,			バレーのペナルティ ① 振付から減点	ナルティ②	クスのペナルティ	
	大コカ	直線		低 並 高				最エイムセンンサッ		行非 境	
	(MIX得点の22%)	アーク・カー	ブ	低 並 高	1			大 デッ 違ッ ディロ 反 ト	備源 小 技 名 演 中	為ス 界 ポ 線	
バ		ターン・角付	け	低 並 高	1		点	技 ンパ ア グー ツ	技 の	越 ツ え	
レ		音楽の解釈		低 並 高	メモ		****	間 ギ プ	出間言	マ	
I		複雑性		低 並 高	1			超 ン タ 過 · イ	し以の下	ン 的	
	振付	曲調の変化の	利用	低 並 高	i i			有有有	有有有	有有	
	(MIX得点の33%)	トリックの効っ	果的活用	低 並 高	I					失 失	
	(MIN/4/W 0) 20 /0)	テンポの変化		低 並 高				点 点 点 点 減 減	点 点 点 点 減	格格	
		ウィンドウのネ	活用	低 並 高			Ä	点点点	点点		
競技	支順:	図形1	作成例		図形 2			図形3			
氏名		DT 03 - Follow	, Flank Up, and Squ	Jare venior 2006-07-07							
		90	n ^ a ^	# OM							
AJS	SKANo.:	80		(
		50									
	コンパルソリー	30									
	(それぞれMIX得 点の15%)	70	20 0 10 30	40 60							
		CC.1 (30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	CC.1(30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	CC.1(30%)	CC.2(30%)	その他(40%)	
	採点	平行線	直角	コンボーネントの相対的位置/タイミング							
	* 7 la 7°la a 100			TE //(0/							
	※それぞれ0-100 点で記入										
	コンパルソリーのペナル	点 図形の間違い	点 イン・アウトコールの欠落	点 セットアップタイム違反	点 図形の間違い	点 イン・アウトコールの欠落	点 セットアップ・タイム違反	点 図形の間違い	だいアウトコールの欠落	点	
	コンハル バリーロンペ)ル ティ	無 有→0点	無 ・有→0点	無 ·有→0点	無 ・有→0点	無 ・有→0点	無・有→0点	無 有→0点	無 ・有→0点	tットアップ タイム違反 無 ・有→0点	
		コントロール		低 並 高	. メモ 1			バレーのペナルティ	バレーのペ -	5-0 * 1 # = .	
	実行力	音楽との同調	性	低 並 高	I			① 振付から減点	ナルティ②	クスのペナルティ	
	(MINAR E A)	直線		低 並 高				最 エイ ムセ カン 違ッ		行非 境 為ス 界	
	(MIX得点の 22%)	アーク・カー	ブ	低 並 高				八 デブ 壁 ケ 万 万 万 万 万 万 万 万	名 演 中	ポ 線	
バ		ターン・角付	け	低 並 高			点	技時でデージ		越 ツ え	
レ		音楽の解釈		低 並 高	メモ			間 ギ プタ	出間言	マン	
	振付	複雑性		低 並 高	i			過 イ	の下	的	
		曲調の変化の	-	低 並 高	í	1		有 有 有 人	有 有 有 ↓	有 有	
	(MIX得点の 33%)	トリックの効	果的活用	低 並 高				10 10 10 点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点	(10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10)	失 失 格 格	
	00 /0)	テンポの変化	~ II	低 並 高	•			減 減 減	減減	111 111	
1		ウィンドウのネ	 古用	低 並 高	î		点	点点点	点点		

添付 B:参照リスト Appendix B:Field References

フィールト・ティレクター用参照リスト Field Director's Field Reference

ISK ジャッジ ブック より

参照項目	ジャッジが判断するペナルティの内容						
Ⅷ. A. 1. a)	セットアップタイム違反						
Ⅷ. А. 1. a)	次のコンパルソリーあるいはテクニカルルーティンの開始が遅れた						
Ⅷ. А. 1. b)(1)	バレーあるいはテクニカル ルーティンが最低制限時間に満たない						
Ⅷ. A. 1. b)(2)	バレーあるいはテクニカル ルーティンが最大制限時間を越えた						
II. D. 2. b)	演技中に助言を受けた						
Ш. В. 2. 3	境界線越え						

ISK ルールブック より

参照項目	時間制限	個人	ペア	チーム
IV. G.	競技開始のセットアップ	3分	4分	5分
IV. G.	次のコンパルソリーまでのセットアップ	45 秒	45 秒	45 秒
IV. G.	テクニカルルーティン開始までのセットアップ 💥	90 秒	90 秒	90 秒
IV. I. 2. C)	テクニカルルーティンの演技時間(最小~最大)	1~3分	2~4分	2~4分
Ⅳ. H. 1.	バレーの演技時間(最小~最大)	2~4分	2~5分	2~5分

ISK ルール ブック より

参照項目	風速規定	個人	ペア	チーム	
IV. J. 2.	ウィンド チェック コールを受付ける時間(各種目の最小制限時間まで)	バレーは開始から2分 以内 テクニカルルーティン は開始から1分以内	バレー、テクニカル ルーティン共、開始 から2分以内	·	
Ⅳ. J. 1.	風速の測定: 10 秒間計測し	ノービス ノービス以外		m/s(4.4~18.6mph) m/s(2.5~28.0mph)	

ISK ルールブック より

参照項目 Ref.	ラウンチ クルー	個人	ペア	チーム
IV.Q.	最大人数	2名	2名	チームメンバー数

添付 C: 抗議書のサンプル Sample Protest Form

抗議書 Protest Form

大会名	場所	年月日	
競技者名	個人名·登録番号		
個人名	 チーム/ペア名・登録番号		
チーム/ペア名			
抗議対象の競技種目名	Discipline in or about which	the protest is being filed	
抗議内容に関連するルー	ル条項 Specific rule book	reference	
抗議の内容 Specific prof	test		
ジャッジ・オフィシャル等の) 対応内容 Action taken		

添付 D:チーフジャッジ大会レポート Sample Chief Judge's Report

チーフジャッジ大会レポート Chief Judge's Report

大会名 Event Name						
場所 Location						
開催年月日 Date						
認可機製名 Sanctioning Authority						
チーフジャッジ名 Chief Judge						
オーガナイザーEvent Organizer						
種目別参加競技者数 Number of Competitors Listed by class and discipline	種目名	人数	種目名	人数	種目名	人数
天候 Weather Conditions	天気		風速			
観客教/観客の反応・評判 Spectator Attendance,						
Notes on spectator reaction						
大会初参加者の獲得は?						
Efforts to Enlist New Fliers						
大会概要/問題点/今後に向けての						
改善提案など						
General Notes on Competition, Including any difficulties and						
Recommendations to avoid						
repeating						
抗議事項/その対処内容						
List of any Protests and their						
Resolution						
講評会での競技者からの意見						
Competitors' Suggestions at Debriefings						
. –						